

# ピオグリタゾン錠「FFP」 ピオグリタゾンOD錠「FFP」

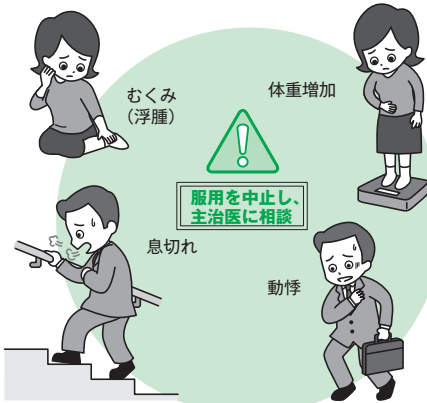
を服用される方へ

ピオグリタゾン錠「FFP」			
15mg			30mg
			
			

ピオグリタゾンOD錠「FFP」			
15mg			30mg
			
			

インスリンの働きを高めることにより高血糖を改善する2型糖尿病の治療薬です。  
以下の点に注意してください。  
この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

(1)この薬を服用中に、**むくみ(浮腫)**や**急激な体重増加**、**息切れ**、**動悸**などがあらわれることがあります。とくに心臓の病気のある方は注意してください。また、このような症状があらわれたときは、この薬の服用を中止し、すぐに主治医に相談してください。



- ◆**むくみ(浮腫)**：足や全身のむくみ、顔や目のはれぼったいなど
- ◆**体重増加**：体重はできるだけ毎日測定し、急激な増加に注意してください
- ◆**息切れ**：からだを動かすと息が切れる、息苦しいなど
- ◆**動悸**：激しい運動をしていないのに心臓がドキドキするなど

これらの症状は、この薬を飲み始めてから早期にあらわれることがあります。  
また、次の方はとくに注意してください。

- 心臓の病気(心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など)のある方
- 肝臓や腎臓に障害がある方
- インスリンを併用している方

(2)低血糖症状を起こすことがあります。

この薬とほかの糖尿病薬を併用した場合に、低血糖症状を起こすことがあります。とくにインスリンとの併用時に多くみられています。

## 低血糖の症状及び特徴

- ・血液中の糖分が少なくなりすぎた危険な状態です。急に異常な空腹感や、冷や汗、動悸、手足のふるえ、目のちらつき、頭痛が起こったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。
- ・特徴として空腹時に起こりやすく、食べ物をとるとすぐに良くなります。



(必ず裏面もご覧ください)

## ◆この薬を飲んでいるときに低血糖症状が起こったら

- ・軽いうちは糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとると治ります。普段から糖分(スティックシュガーやブドウ糖など)を持ち歩き、低血糖症状が起こったときは、すぐその場で糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとってください。
- ただし、 $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース、ミグリトール)を併用して低血糖症状が起こったときは、必ずブドウ糖をとってください。
- ・低血糖症状を起こした場合は、必ず早めに主治医に報告してください。

## ◆高所作業、自動車の運転など機械の操作に注意してください。

高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

### (3)この薬と膀胱がんについて

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- ・膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- ・また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、主治医に相談してください。
- ・ご不安、ご不明な点については、主治医の先生とご相談いただき、くれぐれもご自身の判断で薬の服用を中止しないようお願い申し上げます。

◆**血尿**：尿が赤くなる（痛みを伴わない場合が多い）

◆**頻尿**：排尿の回数が多くなる

◆**排尿痛**：急な尿意や排尿時の痛み

### (4)その他に次のような症状があらわれることがあります。

これらの症状に気づいた場合は、主治医に相談するようにしてください。


- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい

### (5)この薬は必ず主治医の指示に従って服用してください。

- ・薬の量や飲み方は主治医の指示を守り、また食事療法・運動療法をきちんと守ることが大切です。
- ・食事時間の遅れ、激しい運動、空腹時の運動は避けるようにしてください。
- ・その他不快な症状が気になる場合は主治医または薬剤師に相談してください。

(必ず表面もご覧ください)

病医院／薬局名

製造販売元  
 共創未来ファーマ株式会社  
東京都品川区広町1-4-4

2019年3月作成 pio-KS①